

夏季の屋外イベントにおける熱中症対策について

1. イベント開催までに準備しましょう

STEP① イベントが決まったら熱中症対策を講じましょう

【リスクを減らす取り組み】

- ・会場での対策検討（P3「2【会場での熱中症対策の例】を確認）
- ・気温等によるイベントの変更・中止の基準を確認（P2「市主催・共催等の日中の屋外イベントの中止等の判断基準」参照）

【熱中症発生時の対応マニュアルの作成】

- ・「対応責任者や通報・搬送の対応スタッフを明示したフロー」「搬送ルート」などを定める（P5「3【緊急時の応急処置】」を確認）

【救護体制の確保】

- ・冷たい飲料の補給場所や涼しい休憩場所を用意
- ・大規模なイベントの場合は、医療スタッフ確保、救護所の設置検討（救護所設置目安：観客1万人につき1か所、医師1名、看護師2名からなる救護所設置）
- ・現場で初期対応を行うか医療機関での治療が必要かどうかの判断を行えるよう、スタッフ全員が熱中症に関する知識を身につけておく。

STEP② イベントが近づいたら再度検討しましょう

〈2週間前～前日〉

- ◆イベントの中止・変更
- ◆開催時間・場所の変更
- ◆プログラムの変更
- ◆医療体制の規模の再検討
- ◆十分な飲料の確保
- ◆関係者の体調の確認

〈当日〉

- ◆参加者への注意の呼びかけ
- ◆イベントスタッフへの熱中症リスクの共有

(参考：市主催・共催等の日中の屋外イベントの中止等の判断基準)

イベント中止等の判断は、環境省から発表される暑さ指数、熱中症特別警戒情報及び熱中症警戒情報のもとに行う。	
イベント告知の際、以下の場合には中止又は延期される可能性があることも知らせる。	
<u>暑さ指数が31を超える場合</u>	参加者の年齢、会場の状況、イベントの内容等に応じて開催の可否を判断する。
<u>熱中症警戒情報が発表された場合</u>	日中の屋外での運動を中止又は延期する。
<u>熱中症特別警戒情報が発表された場合</u>	日中のイベントを中止又は延期する。

※警戒情報発表のタイミング：前日17時及び当日5時時点における予測値が暑さ指数33を超えるかどうかをもとに発表

特別警戒情報発表のタイミング：前日10時時点における翌日の予測値が暑さ指数35を超えるかどうかで判断、前日14時に発表

豊橋の暑さ指数はこちらのQRコードを参照してください⇒



〈参考〉暑さ指数(WBGT)に応じた日常生活に関する指針

暑さ指数(WBGT)	注意すべき生活活動の目安	注意事項
危険 (31以上)	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。 外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
厳重警戒 (28~31)※1		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25~28)※2	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に充分に休息を取り入れる。
注意 (25未満)	強い生活活動でおこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

環境省熱中症予防サイトより

〈参考〉暑さ指数(WBGT)に応じた熱中症予防運動指針

気温(参考)	暑さ指数(WBGT)	熱中症予防運動指針
35℃以上	31以上	運動は原則中止 特に子どもの場合には中止すべき。
31~35℃	28~31	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。 10~20分おきに休憩をとり水分・塩分の補給を行う。 暑さに弱い人は運動を軽減または中止。
28~31℃	25~28	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給する。 激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
24~28℃	21~25	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。 熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
24℃未満	21未満	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。 市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。

(公財)日本スポーツ協会「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」(2019)より
※暑さに弱い人：体力の低い人、肥満の人や暑さに慣れていない人など

2. 実施時の対策を確認しましょう

【会場での熱中症対策の例】

- ①待機列を作らない工夫と
日陰への誘導
- ◆長時間の待機をさせない
(整理券の配布など)
 - ◆「指定席」を導入して、席確保の為
の待機を少なくする
 - ◆待機列をなるべく直射日光にさら
さない
(木陰や施設の陰に誘導)
 - ◆待機列の風通しを良くする
(並列にならないように誘導)

- ②開場・終了時の
混雑緩和
- ◆入退場するゲートの数を増やす、
幅を広くする
 - ◆特定の場所や時間帯に観客が集中
しないようにイベントのプログラ
ムを工夫する
 - ◆待機のために広い空間を確保する

③施設等の
分かりやすい案内

- ◆給水所、自動販売機、売店、救護所
等の場所を分かりやすく表示する
- ◆トイレは十分な数を用意して、わ
かりやすく表示する
- ◆スタッフを目立たせ、参加者が声
をかけやすくする

④休憩場所、飲料の
確保

- ◆イベント参加者が休憩できる場所
を設ける
- ◆給水器、自動販売機を待機列の近
くなど利用しやすい場所に設置す
る
- ◆自動販売機等の欠品を防止する

【スタッフ向け対策の例】

- ◆屋外での仕事はなるべく風通しの良い日陰で行う
- ◆屋外で働くスタッフには、空調の効いた休憩場所を用意する
- ◆特に暑熱な場所での仕事は、なるべく短時間で交代させて涼しい場所で休憩させる
- ◆特に暑熱な作業を行うスタッフには送風や冷却を行う保護具を使用させる
- ◆スタッフの服装や帽子は、光反射性、通気性、透湿性の良いものを選定する
- ◆仕事前に体調確認をして、脱水状態、欠食、睡眠不足、体調不良があれば暑熱作業か
ら外す
- ◆暑さ指数（W B G T）の予報、気象予報を周知徹底する
- ◆定期的に巡回を行い、スタッフの健康状態や、定期的に水分、塩分を摂っているかを
確認する

【イベント参加者への注意の呼びかけ例】

◆イベント開催前

- 帽子や日傘などを用意しましょう
- ゆったりとした、汗を吸収しやすい服装を選びましょう
- イベント前日は休息をしっかりととり、睡眠不足のまま参加しないようにしましょう
- 朝食は必ず食べましょう
- 緊急連絡先として家族やかかりつけ医の電話番号を携帯しましょう
- 中止や延期の可能性がありますので、熱中症警戒情報に注意しましょう

◆イベント開催中

- こまめに水分・塩分を補給しましょう
- 日陰の場所や自動販売機などの場所を把握しましょう
- 涼しい場所でこまめに休憩しましょう
- 帽子や日傘などをつかいましょう
- 体調不良時はすぐにスタッフに声をかけましょう
- 高齢者、乳幼児、車いすで移動する人やからだに障害のある人等は熱中症のリスクが高いことから決して無理をさせないようにしましょう

3. 熱中症が疑われるときは症状に応じた対応をしましょう

【緊急時の応急処置】

責任者：

①熱中症を疑う症状がありますか？

（めまい・失神・筋肉痛・大量の発汗・頭痛・不快感・吐き気・嘔吐・倦怠感・虚脱感・意識障害・けいれん・手足の運動障害・高体温） 症状の内容はQRコード⇒



はい

②呼びかけに答えますか？

いいえ

救急車を呼ぶか迷ったときは

愛知県救急医療情報センター

24時間365日対応

0532-63-1133

※呼びかけに対して応答がないなど重篤な症状の場合には、迷わず**119**で救急車を呼んでください

はい

涼しい場所へ避難し、服を
ゆるめ体を冷やす

救急車が到着するまでの間に応急処置を始めましょう。呼びかけへの反応が悪い場合には無理に水を飲ませてはいけません。

③水分を自力で摂取できますか？

いいえ

水分・塩分を補給する

氷のう等があれば、首、腋の下、太腿の付け根を集中的に冷やしましよう

④症状は良くなりましたか？

七

搬运者 ·

はい

そのまま安静にして十分休息をとり、回復したら帰宅

本人が倒れたときの状況を知っている人が付き添って、発症時の状況を伝えましょう